

第 51 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	奥田ゼミ	チーム名	チーム奥田
タイトル	世界各国の防疫政策		
テーマ群	f)歴史・思想 g)その他		
メンバー	山口皓太、市村海人、塩津京介、高橋優吾、塚下伊生輝、西岡洸太郎		
研究計画内容	<p>「研究背景」</p> <p>新型コロナウイルスの流行は、世界の暮らしを大きく変化させ、今までの暮らしを一変させるものであった。大学生である私たちにも多くの影響があり、学校の授業が対面で行うことができず、PCを使ったWeb活用授業へと変わった。さらに、私生活でも会食や酒類の提供に制限がかかり、学校帰りで気軽に食事をとることが難しくなった。さらに、仕事をしている人たちも家での仕事が増え、PCを使った在宅ワークへと変わり、社会の常識が変わったものだった。</p> <p>日本では、新型コロナウイルスへの対策として「緊急事態宣言」の発令、「まん延防止等重点措置」といった政策が取られた。しかし、私たちのゼミでは目に見えた大きな成果は得られ無かったのではないのかと言う疑問があり、国民にも大きな疑問が生まれているのではないかと考えた。そこで、世界各国ではどのような政策が取られたか、その政策によってどのような効果があったのかを研究の題材とした。</p> <p>「研究内容」</p> <p>今回の研究内容として、日本で取られた「緊急事態宣言」、「まん延防止等重点措置」の具体的な内容に加え、世界各国で取られた新型コロナウイルスへの対策、またその政策は成功だったと言えるのか否か、過去にあった疫病の前例を調べる。主に、世界の主要国といえるヨーロッパ諸国、アメリカ、オセアニア諸国、中華人民共和国などを取り上げ、深いところまで掘り下げて研究する。</p> <p>「期待される効果」</p> <p>これらを研究することにより期待される効果は、日本と世界での対策を比較することにより、グローバルな視点から日本の政策の意味と言ったものを私たちが考えることができる。さらに、過去の前例、今回の新型コロナウイルスの蔓延から、未来で疫病が流行した場合に自分たちが正しい行動をとり、計画を立てることができるようになることと考える。</p>		